

スカパーJSATグループ  
2018年度 第3四半期決算説明会

2019年2月7日(木)

株式会社スカパーJSATホールディングス

証券コード：9412

# 将来の見通しに関する記述について

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

## 《経営全般に関するリスク》

- 当社グループの事業に係わる法的規制等による事業の制約のリスク
- 顧客情報のセキュリティ及び顧客情報管理システムの障害に関するリスク
- 大規模災害による重大設備障害に関するリスク

## 《衛星インフラに関するリスク》

- 通信衛星の機能不全や運用能力低下に関するリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 衛星への保険付保に関するリスク

## 《有料多チャンネル放送プラットフォームサービスに関するリスク》

- 加入者獲得、維持に関するリスク
- 放送事業者に関するリスク
- システムに関するリスク
- ICカードのセキュリティ等に関するリスク

# 第3四半期連結決算概要

# 損益概要

- 営業収益は防衛省向け衛星引渡し等により191億円(17.4%)増加
- 営業利益はメディア事業・宇宙事業ともに増益となり、5.3億円(4.4%)増加
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、2.8億円(3.2%)増加

(単位:百万円)

	2017年度 3Q累計	2018年度 3Q累計	増減率	通期予想 進捗率	2018年度 通期予想
営業収益	109,483	<b>128,555</b>	17.4%	76.3%	168,500
営業利益	12,115	<b>12,648</b>	4.4%	76.7%	16,500
経常利益	12,849	<b>13,659</b>	6.3%	80.3%	17,000
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,621	<b>8,900</b>	3.2%	77.3%	11,500
EBITDA *1	32,445	<b>32,239</b>	△0.6%	76.8%	42,000

\*1. EBITDA = 当期純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

# セグメント別連結業績の推移(2017年度1Q ~ 2018年度 3Q)

## ■ 対前年同四半期比較

- メディア事業は、視聴料収入減少。基幹商品のプロモーション強化により減益
- 宇宙事業は、営業収益減少。通信衛星JCSAT-5Aの償却終了により増益

(単位:百万円)

	2017年度					2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
営業収益	37,195	36,525	<b>35,762</b>	36,018	145,501	58,772	35,066	<b>34,716</b>
メディア事業	27,424	26,828	<b>25,925</b>	25,620	105,798	25,857	25,368	<b>25,160</b>
宇宙事業	12,524	12,428	<b>12,459</b>	12,987	50,400	35,541	12,266	<b>12,221</b>
消去又は全社	△2,754	△2,731	<b>△2,622</b>	△2,589	△10,697	△2,626	△2,569	<b>△2,665</b>
営業利益	4,334	4,547	<b>3,233</b>	3,536	15,652	4,646	4,969	<b>3,033</b>
メディア事業	1,005	1,448	<b>239</b>	541	3,233	797	2,055	<b>19</b>
宇宙事業	3,531	3,430	<b>3,034</b>	3,141	13,137	4,034	3,082	<b>3,170</b>
消去又は全社	△202	△331	<b>△40</b>	△145	△719	△185	△168	<b>△156</b>

2018年7月よりセグメント名称を「宇宙・衛星事業」から、「宇宙事業」に変更いたしました。セグメント別の業績に与える影響はございません。

# メディア事業の主要指標(\*)

- 基幹商品好調により、新規+再加入件数増加
- プレミアムサービス加入件数減の影響等により、ARPUが減少
- 基幹商品好調による新規加入件数増加の結果、SAC単価が減少

	2017年度 3Q累計	2018年度 3Q累計	2018年度目標値
新規+再加入件数(万件)	37.3	<b>44.4</b>	53.2
純増数(万件)	△8.1	<b>△6.0</b>	△5.2
累計加入件数(万件)	323.8	<b>320.3</b>	321.0
加入者月額支払単価(¥)	3,237	<b>3,173</b>	-
ARPU(¥)	2,051	<b>1,989</b>	-
SAC単価(¥)	34,395	<b>25,717</b>	-

※スカパー！、スカパー！プレミアムサービス、スカパー！プレミアムサービス光の合計値

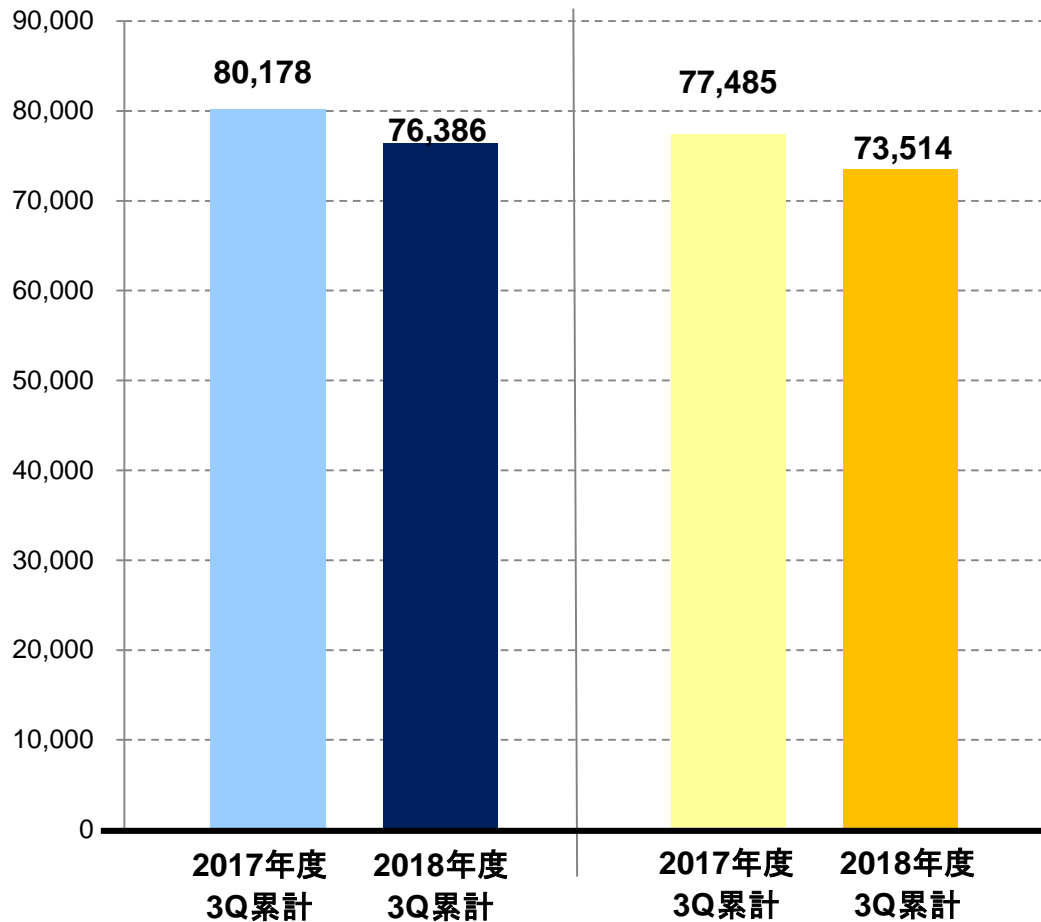
# メディア事業の業績概況：前年同期比

## メディア事業

(単位：百万円)

### 営業収益

### 営業費用



営業収益(▲38億円)\*

#### <主な増減要因>

\* セグメント間内部取引を含む

- 視聴料収入の減少：△33億円
- その他収入(加入料・基本料収入等)の減少：△5億円

営業費用(▲40億円)\*

#### <主な増減要因>

\* セグメント間内部取引を含む

- 番組供給料の減少：△23億円
- コンテンツ費用の減少：△19億円
- その他費用の増加：+2億円

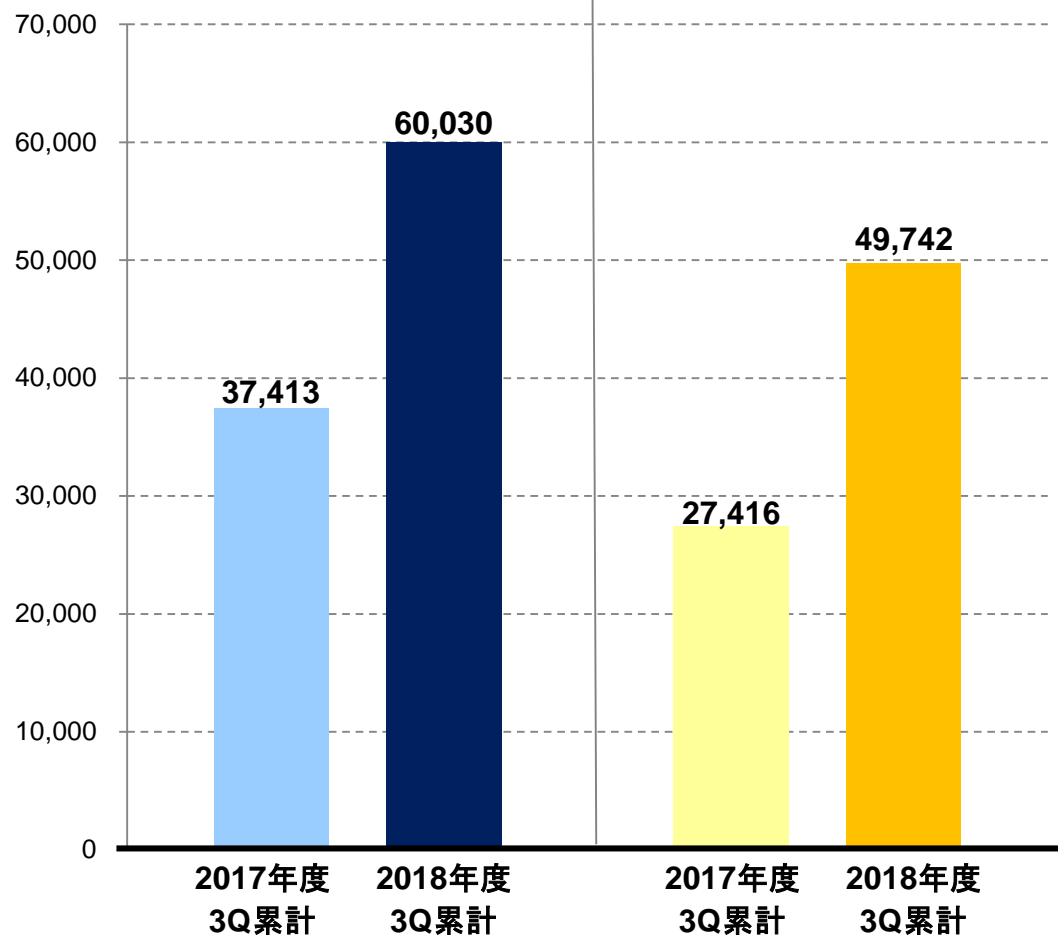
# 宇宙事業の業績概況：前年同期比

## 宇宙事業

### 営業収益

### 営業費用

(単位：百万円)



営業収益(+226億円)\*

#### <主な増減要因>

\* セグメント間内部取引を含む

- 通信衛星及び関連設備の売却：+230億円
- 放送トランスポンダ収入の減少：△2億円
- その他収入の減少：△2億円

営業費用(+223億円)\*

#### <主な増減要因>

\* セグメント間内部取引を含む

- 衛星事業原価等：+234億円
- 減価償却費の減少：△11億円



今後の取り組み  
～メディア事業～

# 魅力あるコンテンツの追求①

## ■ 2019年プロ野球開幕



©Fukuoka SoftBank HAWKS Corp. All Rights Reserved.

FOXスポーツ&エンターテイメント

「2019 HAWKS BASEBALL PARK プロ野球公式戦」

- プロ野球公式戦徹底放送
- オンデマンドでの公式戦全12球団配信に向け調整中
- 2月のキャンプ、オープン戦から楽しめる

プロ野球ファンの皆様にご満足いただけるよう、サービスの拡充を目指します。

# 魅力あるコンテンツの追求②

## 2019 F1グランプリ

3月15日(金)開幕 フジテレビNEXT/スカチャン2 4K



©金子博

全21戦のフリー走行～決勝の全セッションを完全生中継  
**「スカチャン2 4K」にて、4K生中継も実施**

商品  
体系

- ①「F1グランプリ【4K】」:月額1,400円(税抜)
- ②決勝のみPPV※4月販売開始:1,000円(税抜)

## AFC チャンピオンズ リーグ2019



川崎フロンターレ  
浦和レッズ  
鹿島アントラーズ※  
サンフレッチェ広島※  
の4クラブが出場。

※プレーオフ勝利の場合  
グループステージ進出

プレーオフ(鹿島/広島) 2月19日(火)  
グループステージ 3月 5日(火)～  
日テレジータス/日テレNEWS24

## オリジナル時代劇「闇の歯車」



(C)2019「闇の歯車」製作委員会

2月9日(土) 時代劇専門チャンネル

# お客様にとってのスカパー！価値向上

## ■「スカパー！基本プラン」販売開始4か月で加入件数26万件 (他商品からの移行を含む)

スカパー！

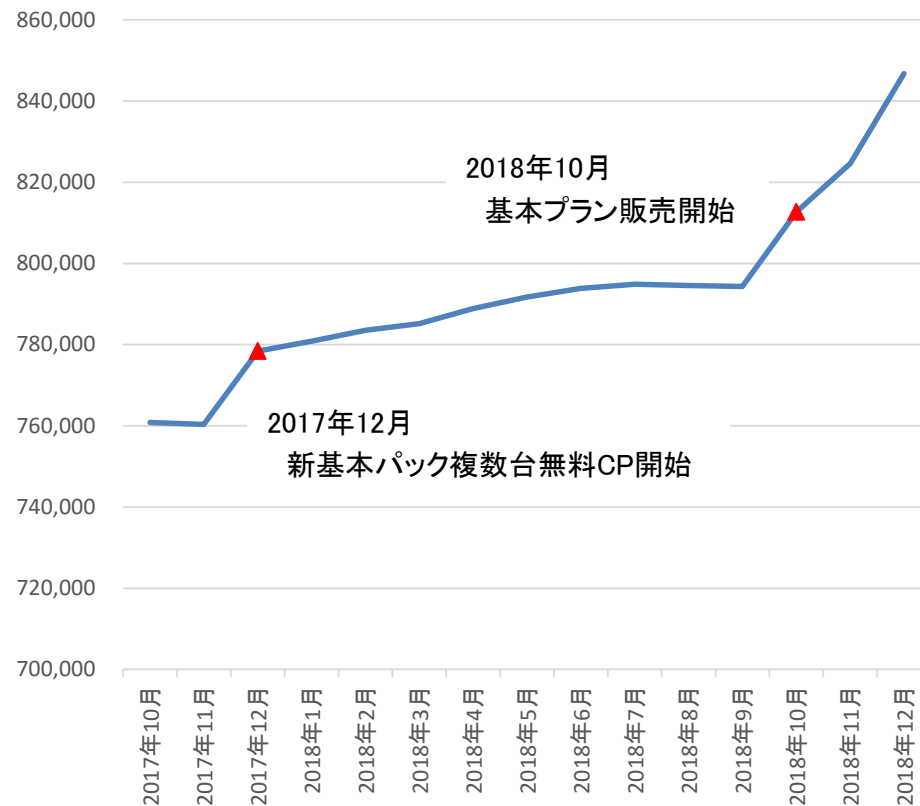


- 11ジャンル・50ch見放題
- 3,600円(税抜)
- TV3台目まで追加料金なし



家を楽しむのは、テレビだ。

基幹商品(新旧基本パック+基本プラン) 加入件数



今後も「基本プラン」契約者数増加に努め、視聴料収入増加を目指します。

# 光回線を使ったテレビサービス(地デジ・BS・CS再送信)の拡大

■ 光回線を使ったテレビサービスを  
2018年12月末時点で219万世帯に提供  
(戸建て 153万世帯、マンション 66万世帯)

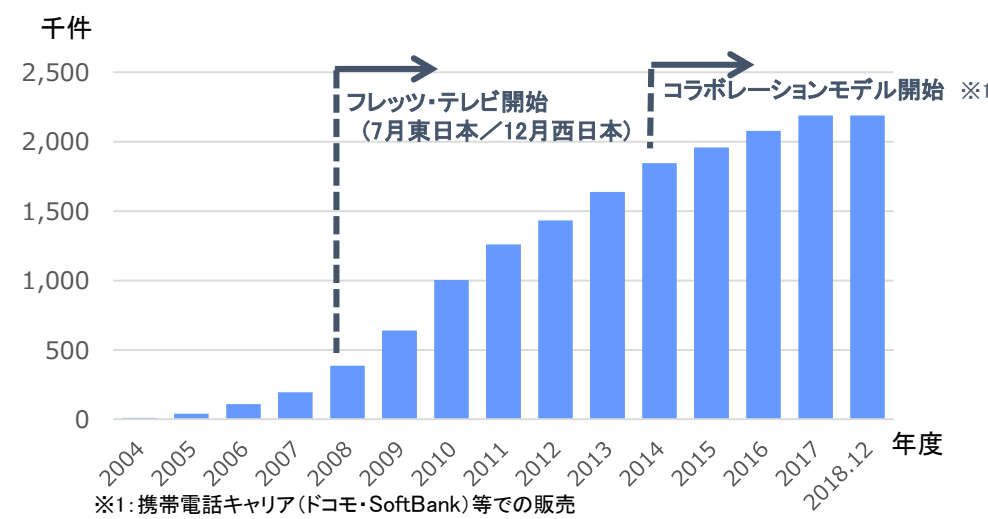
26都道府県 (一部提供世帯含む)  
約3,000万世帯をカバー



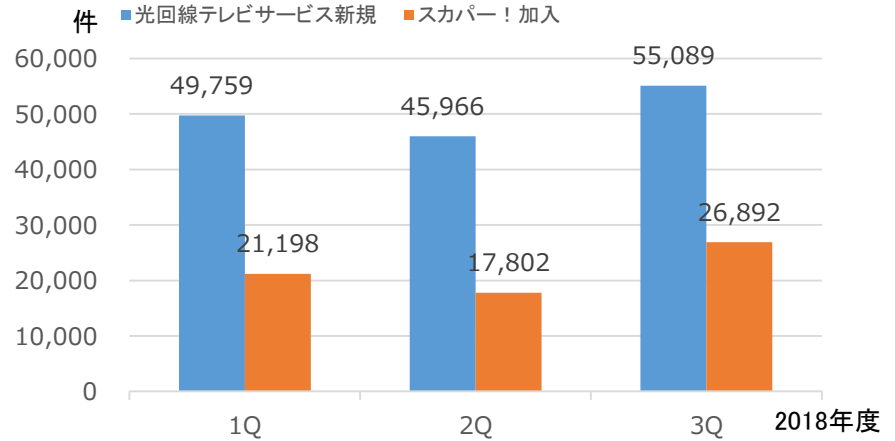
## ■ 新規加入も伸長

- テレビサービスの7割はコラボルート※1  
※1: 携帯電話キャリア(ドコモ・SoftBank)等での販売
- スカパー！ ※2 新規加入も増加  
※2: 光回線を使ったテレビサービス経由のスカパー！サービス及びプレミアムサービス光

・光回線を使ったテレビサービス(地デジ・BS・CS再送信)の累計加入件数



・光回線を使ったテレビサービス及びテレビサービス上でのスカパー！新規加入実績



2019年夏以降の新4K8K衛星放送(左旋を含む全チャンネル)対応によりサービスが充実。  
さらなる拡大を目指します。

今後の取り組み  
～宇宙事業～



# 低軌道衛星向け地上局サービスの受注

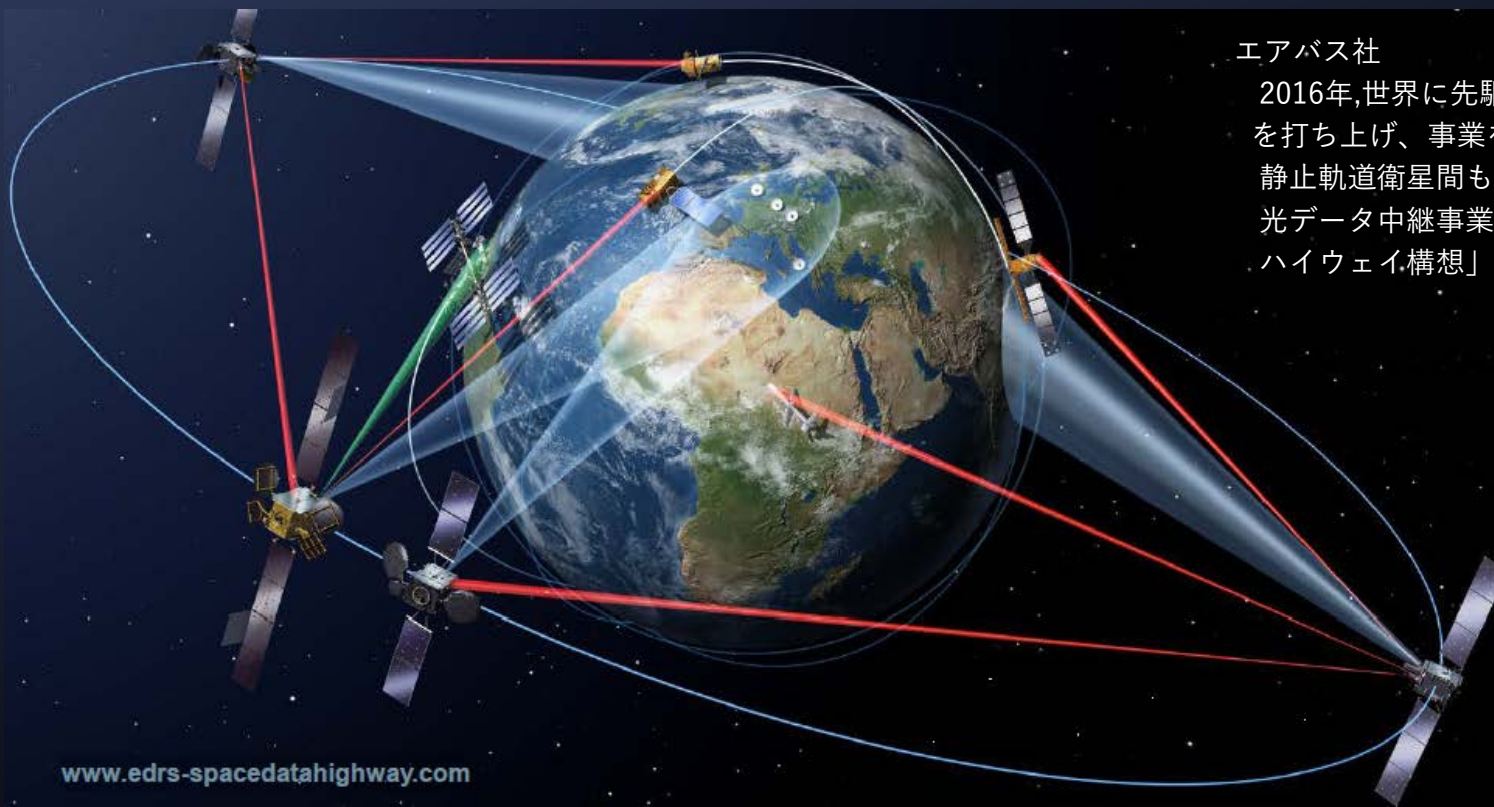
- KSAT社(Kongsberg Satellite Services AS)との協業のもとアクセルスペース社から低軌道衛星向け地上局のサービスを受注
  - アクセルスペース社から、同社の低軌道衛星と地上間のデータを伝送(衛星向けのコマンドの伝送、衛星で撮像したデータの受信等)を行う地上局サービスを受注。
  - 当社の地上局設備(茨城県)、KSATのスバルバード局を利用。



# 光データ中継事業への参画

## ■ エアバス社(Airbus Defence and Space GmbH)と光データ中継事業の共同展開に向けた覚書を締結

- ▶ 静止軌道上の光データ中継衛星を用い、低軌道衛星などが撮像したデータを光通信で中継。近年急速に増大する地球観測データなどを高速かつ準リアルタイムで伝送。
- ▶ エアバス社のスペースデータハイウェイ構想を拡張し、アジアパシフィック地域での光データ中継事業の共同展開に向けて具体的な検討を開始。



エアバス社

2016年、世界に先駆けて光データ中継衛星(EDRS-A)を打ち上げ、事業を開始。将来的には複数機により静止軌道衛星間も光通信で接続し、全地球規模での光データ中継事業へと拡張する「スペースデータハイウェイ構想」を打ち出している。

エアバス社提供  
スペースデータハイウェイ構想  
イメージ図

[www.edrs-spacedatahighway.com](http://www.edrs-spacedatahighway.com)



# STRAPS事業の検討

- Elefante社 (Elefante Group International Ltd. )と共同で Lockheed Martin社開発の STRAPS(Stratospheric Platform Station) によるサービス検討に関する覚書を締結。2023年度の日本国内サービス提供を目指し市場性の調査を開始。

**STRAPS**...成層圏から大容量な通信プラットフォームの展開が可能。

Lockheed Martin社にて飛行船型STRAPSを開発し、Elefante社にて米国を始めアジア・中東アフリカでのサービス提供を検討中。

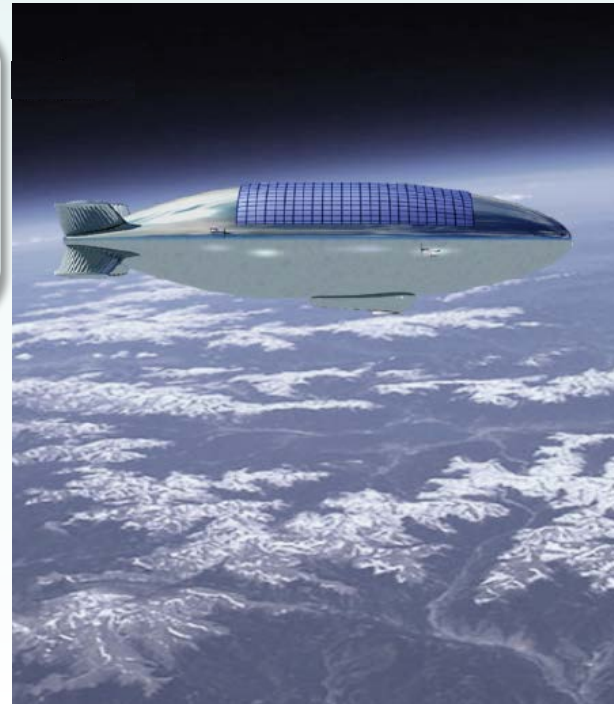
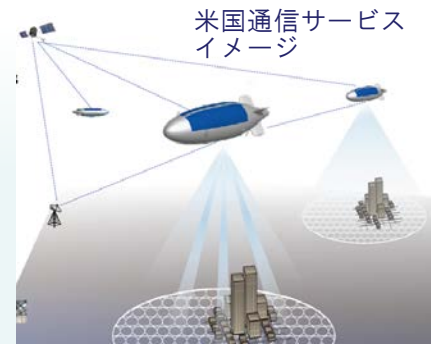
特長：超低遅延・大容量通信 / 機器の交換・改修やサービスエリアの移動が可能

用途：携帯事業者向けバックホール / ブロードバンド通信 / 観測・監視データ収集 等

ELEFANTE GROUP

## 米国におけるサービス計画例

2022～2023年から大都市を中心に80～100機展開予定。LTE・5Gバックホールやダイレクトアクセスに活用



## STRAPS機体

LOCKHEED MARTIN

サイズ：全長210m,全高45m

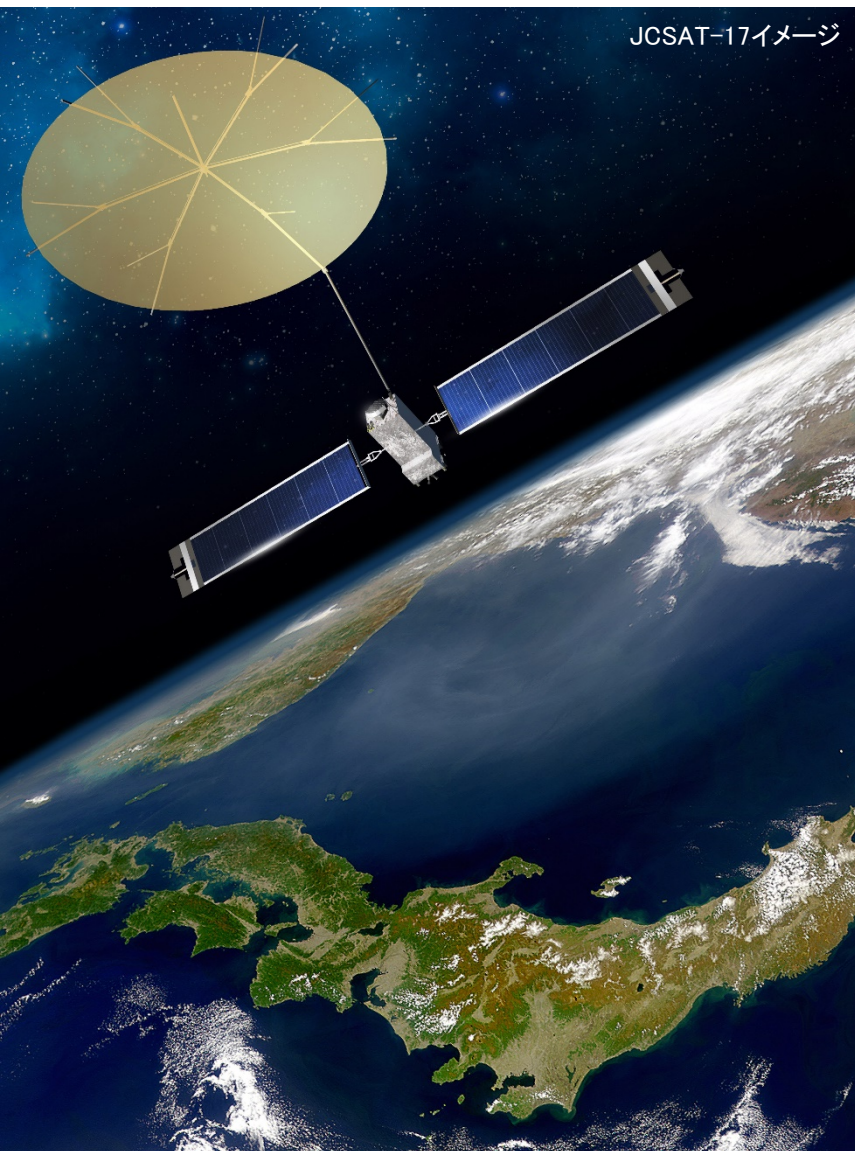
重量：20,000kg 高度：20km

通信容量 : 1Tbps / 機

カバーエリア：半径70km (通信)



# 打ち上げ予定衛星一覧

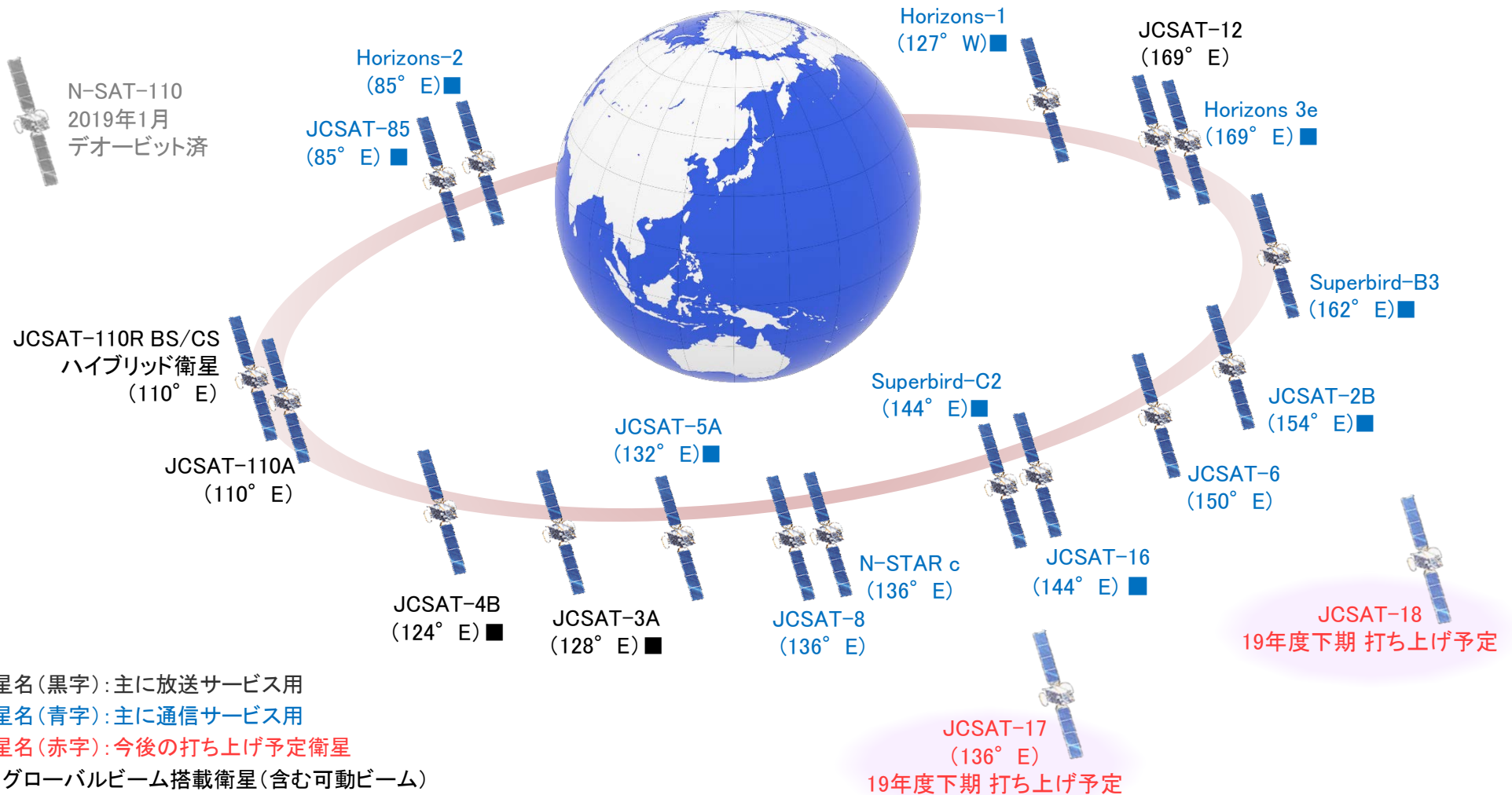


	JCSAT-17	JCSAT-18 (HTS衛星)
衛星バス	A2100	702MP
製造メーカー	Lockheed Martin	Boeing
ロケット	Ariane5	Falcon9
打上時期	2019年度下期 予定	2019年度下期 予定
軌道位置	東経136度	TBD
衛星寿命	15年以上	15年以上
目的	国内通信提供	海外・モバイル (Kacific社共同衛星)

credit: Lockheed Martin

# 衛星フリート図

北米上空からインド洋上空まで計**17機**の衛星を保有



衛星名(黒字):主に放送サービス用

衛星名(青字):主に通信サービス用

衛星名(赤字):今後の打ち上げ予定衛星

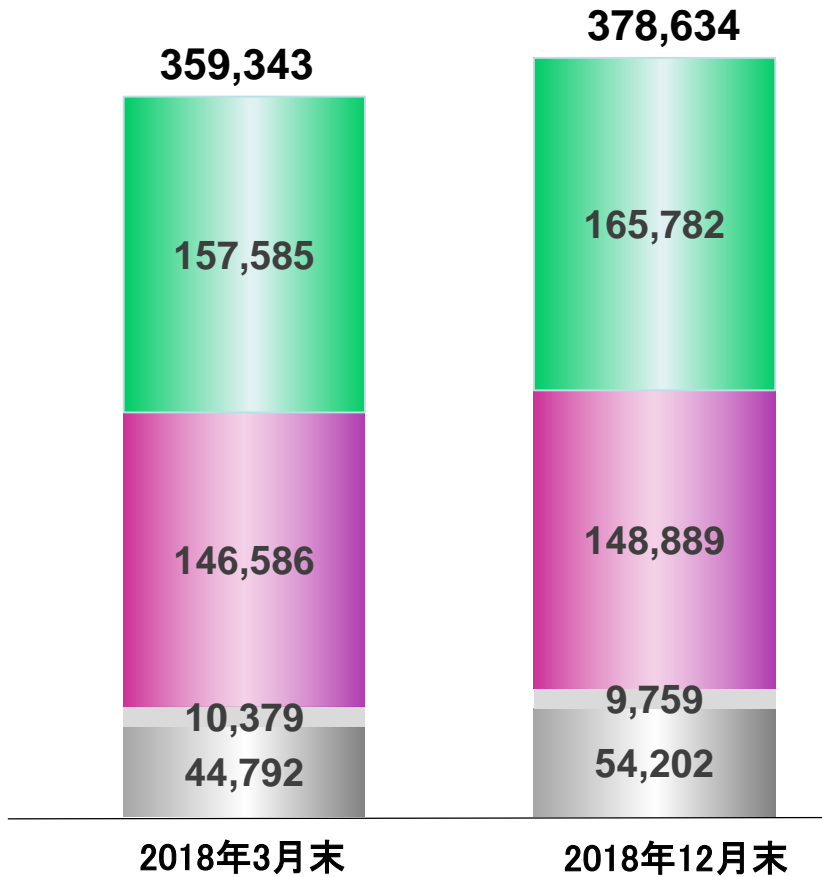
■:グローバルビーム搭載衛星(含む可動ビーム)

(参考資料)

# 連結貸借対照表

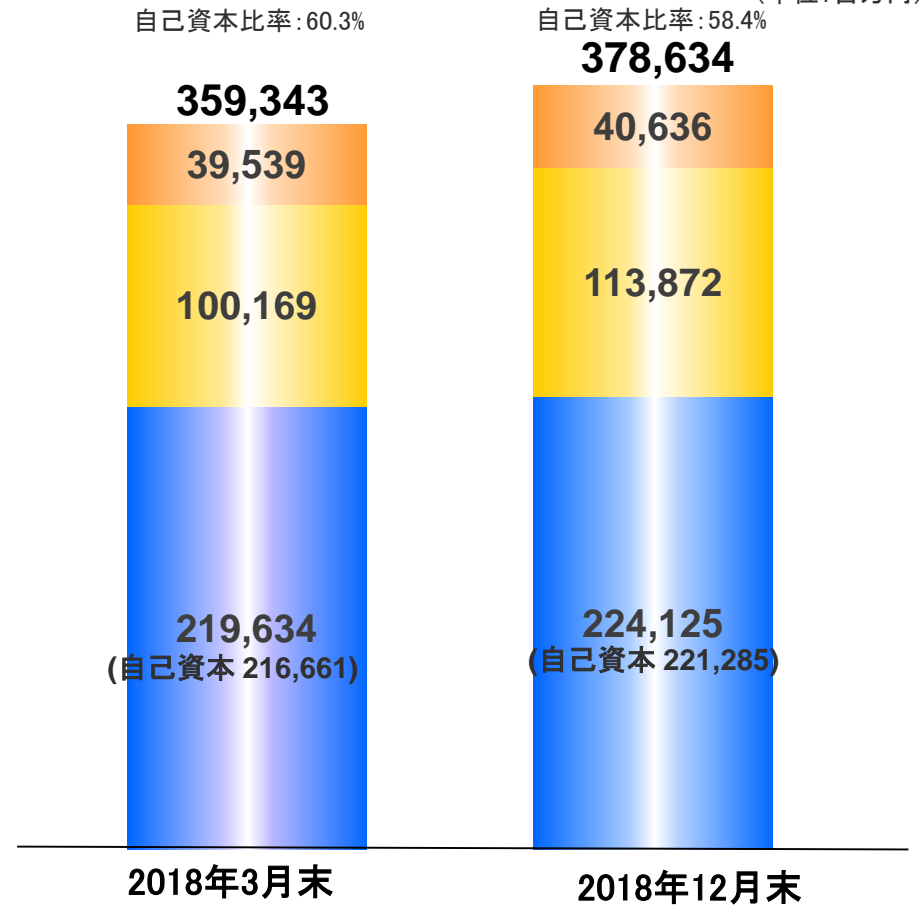
## 資産

(単位:百万円)



## 負債・純資産

(単位:百万円)



■ 流動資産   
 ■ 有形固定資産   
 ■ 無形固定資産   
 ■ 投資その他資産   
 ■ 流動負債   
 ■ 固定負債   
 ■ 純資産

\*2018年度より『税効果会計に係る会計基準』の一部改正等を適用し、「繰延税金資産」を投資その他の資産に、「繰延税金負債」を固定負債に区分表示しております。自己資本は純資産から少数株主持分を控除して計算しております。

# 連結キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2017年度3Q 累計	2018年度3Q 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,525	22,146
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,971	△24,837
フリー・キャッシュフロー (*1)	△4,445	△2,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,771	9,126
現金及び現金同等物の期末残高(a)	44,431	52,760
有利子負債期末残高 (*2) (b)	91,337	107,991
純有利子負債期末残高 (b)－(a)	46,906	55,230

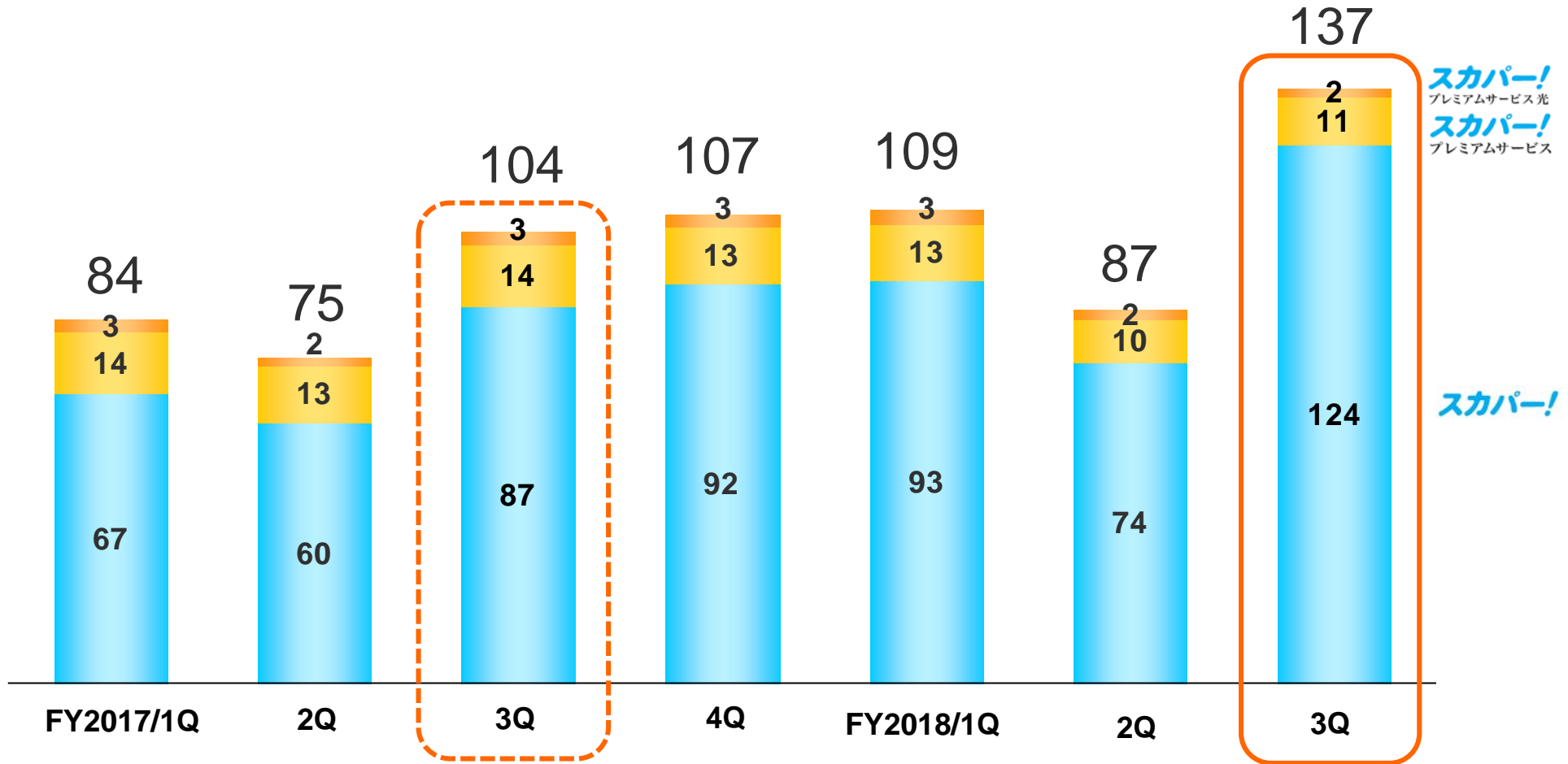
\*1. 営業活動によるキャッシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

\*2. 借入金＋無担保社債

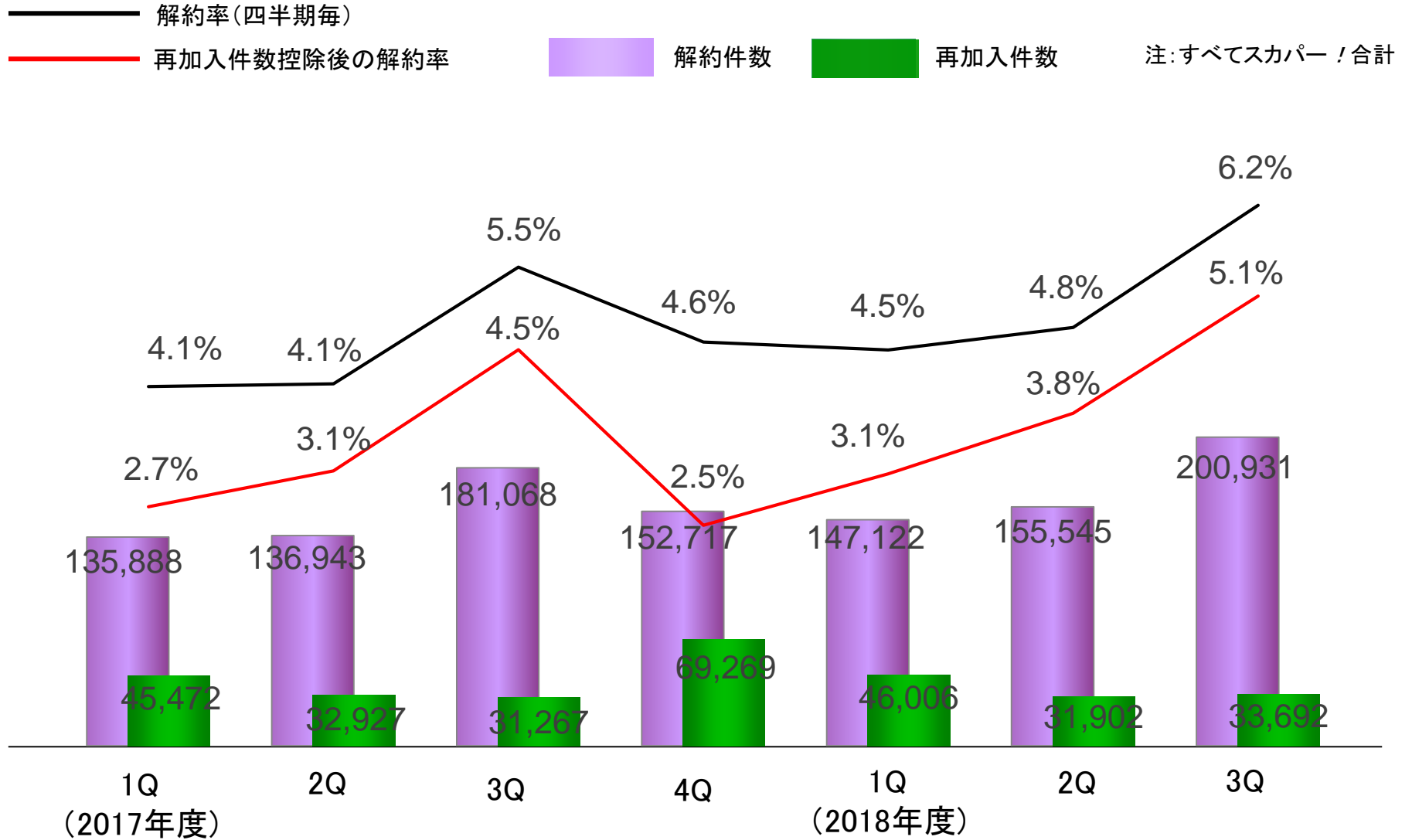


# 新規加入件数の推移

(単位:千件)



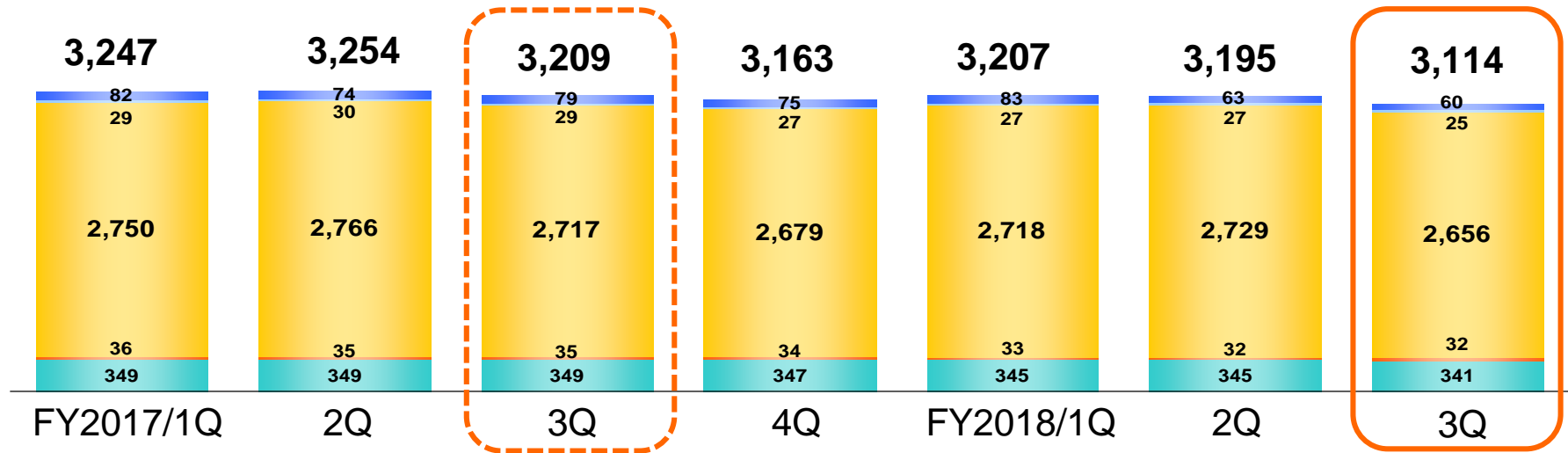
# 解約率の推移



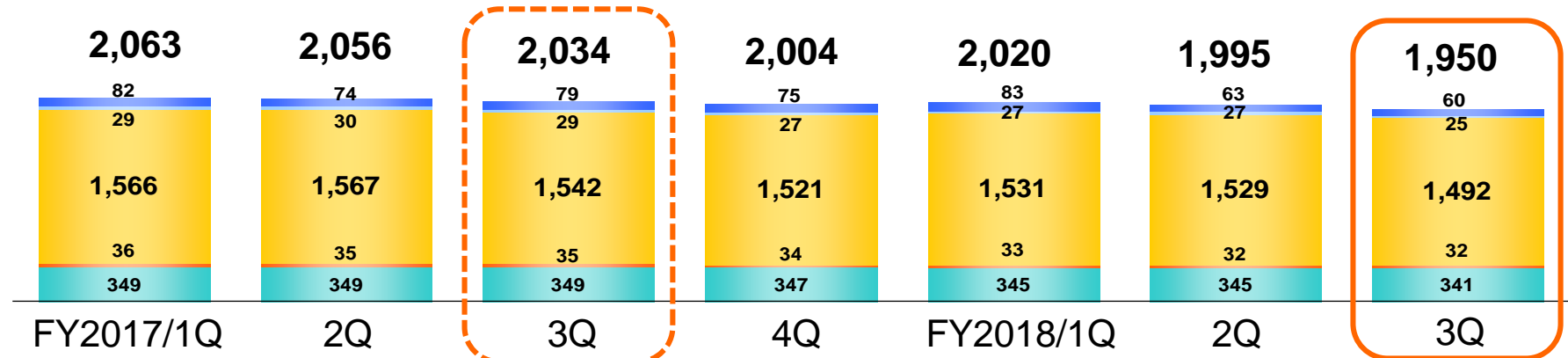
各四半期の解約件数合計を前年度末の累計加入件数で除した率を表示しております。



## ■ 加入者支払単価(¥) (\*1)



## ■ ARPU(¥) (\*2)



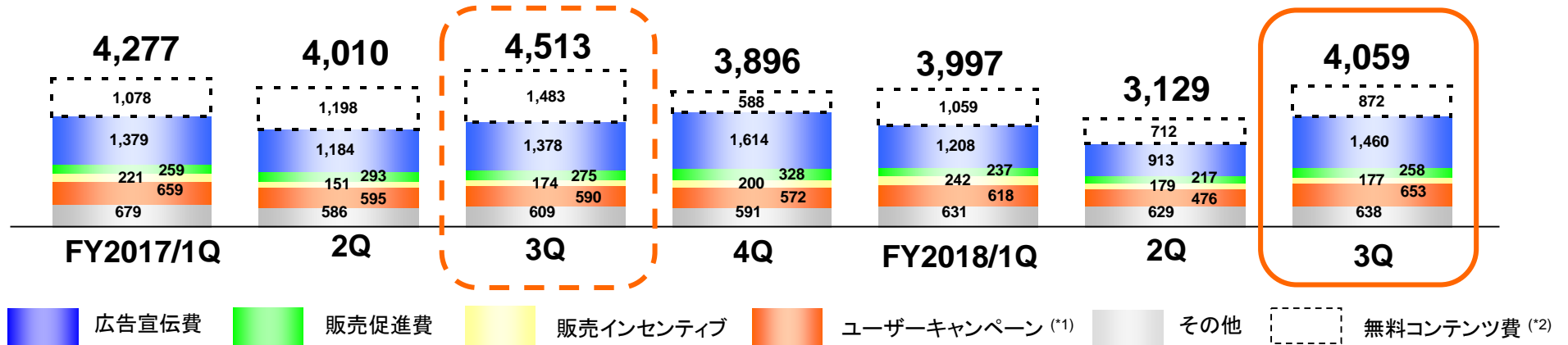
■ 基本料/件   
 ■ レンタル会費/件   
 ■ フラット視聴料/件   
 ■ PPV視聴料/件   
 ■ 自主コンテンツ収入/件

\*1. 加入者が支払う月額視聴料等の平均単価

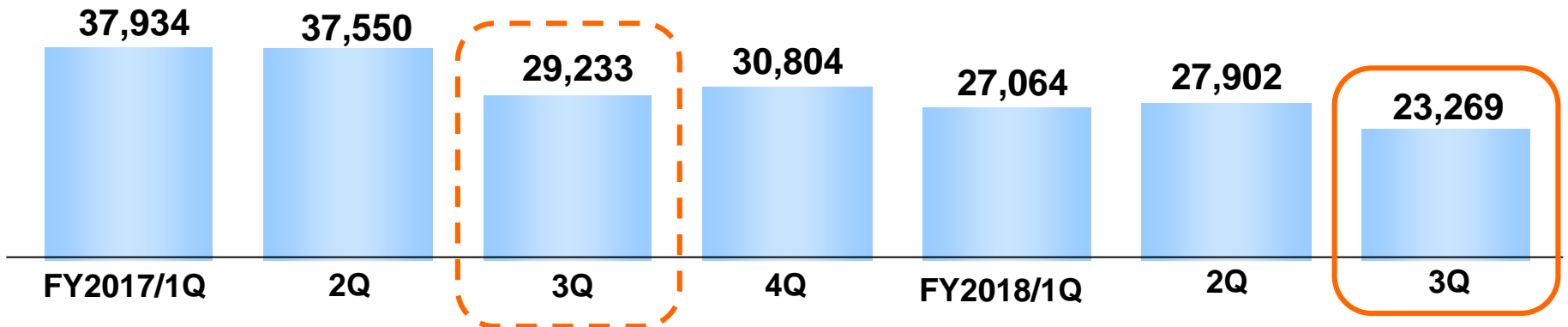
\*2. 加入者が支払う月額視聴料等の平均単価の内、当社グループの営業収益として計上する金額

# 顧客獲得費用(SAC)

## ■ 総額(百万円)



## ■ 単価(¥) (\*3)



\*1. 各種顧客獲得キャンペーンに係る費用

\*2. 「無料コンテンツ費」は、BSスカパー！の番組制作費等を含む。

\*3. SAC単価は、SAC総額(ただし「無料コンテンツ費」は除く)を対象期間の新規加入件数で割った数値

株式会社スカパーJSATホールディングス  
広報・IR部